

【 変革の時代の中で子供達の未来を考える 】

1, はじめに (P1)

2, 変革の時代とされる社会経済の動き (ポストコロナ社会の胎動) (P1)

(1) 新型コロナウイルス感染症のパンデミック拡大

- ①感染症 {伝染病} に対する備えが不十分 {歴史の教訓を活かしたパラベラム}
- ②ウイズコロナに向けて

(2) 全ての分野で驚くべき変革が世界規模で拡大 {恵沢極まりあり}

- ①環境問題 {地球の環境や資源は無限大ではない}
- ②人口問題 {人口減少は課題なのか。人口減少は衰退のバロメーターにはならない。}
- ③経済問題 {工業社会から知識社会の台頭・驚くべき格差社会の出現}

(3) 環境変化を織り込み未来に備える {日本は世界一優秀な国ではなかったの}

- ①処方箋無き現状
- ②3つの悪循環が加速化 {競争力のある成長産業育成に繋がっていない}
- ③諸外国の取り組み {処方箋}
- ④トピック：熊本に世界の半導体製造大手 TSMC {台湾積体回路製造} が進出

(4) 人間関係希薄化病? {21世紀最大の疾病が拡大}

- ①昭和までは維持していた日本の絆社会が大きく変化。
- ②懐かしき日本 {豊秋万古の持続型農業も農家・農村有っての穰りは何処へ}

(5) 課題は時間と共に増幅 {適切な処方箋と実行}

- ①失われた30年 {バブル崩壊後~}
- ②危惧される人間関係希薄化の蔓延

(6) 処方箋その1：地方は可能性の宝庫 {人々が幸せを感じる参加型共生社会}

3, 向村離都・田園回帰の奨め {幸せが住む虹色の湖=本当の幸せは足元} (P6)

(1) 世の中の動きへの対応 {絶望の危機は希望の未来への道筋を内在}

- ①人間関係希薄化の流れを止める {共生社会の再構築}

(2) 時代が求める癒しの空間づくり {市場社会からほどほどの距離感}

- ①癒しの空間整備 {生きていることが喜び}
- ②地方の豊かさのリバイバル {自分達のライフスタイルと誇りの再生}
- ③豊かな自然の中で心のトリートメント {都市圏との交流の仕組み}
- ④時代のトレンド、癒しの空間づくり {well-being}

4, 人材とは {私の学んだこと} (P7)

(1) 学問 {読書} の奨め {答えは全て図書館の中にある}

- 私の成長を助けてくれた書籍 {登場人物の智慧と作家の思索の深さ}

(2) テミストクレスへの賛辞 {ギリシャの歴史家ツキジデス}

(3) 草莽崛起の気概 {昌平坂学問所や藩校ではなく先覚者が開いた私塾から人材輩出}

5, まとめ {保護者として子供達に寄り添い、伝え、皆んなで力を合せて、共に頑張りましょう} (P9)

※補足資料 (P10~P13)

【 変革の時代の中で子供達の未来を考える 】 (講演資料)

1, はじめに

(1) 感謝と晴耕雨読の日々 {仕事師、常勤から解放}

- ※大いなるものに生かされあることを今朝吹く風の涼しさを知る {山田無文老師}
- : 39歳の時に学校行事で負傷、以後、命に御縁があった事を日々神仏に感謝。
- : 自宅横の中福寺観音様に毎朝参拝 {不足なし中福寺これぞまことの諸法実相}
- ※生涯現役を目指し、晴天の日は、山林の間伐や見回り、雨天の日は、読書や相談役等の仕事
- : 実家は農林業 {生業=不易}、跡取り息子で県職員 {生活原資} と二足の草鞋
- : 定年で長距離通勤から解放⇒陶淵明帰去来の辞 {歸去來兮 田園將蕪胡不歸〜}

(2) PTA 活動は、真のボランティア精神 {皆様に深く敬意}

- ※でも、とても大切な役割で未来を担う子供達にとっての責務を果たすことにつながる。
- ※役員の皆様は、どなたかが果たさねばならない役割ですが本当にご苦労様です。
- ※それでも貴重な経験を積む機会、出会いもあり人の和も拡がる、何より子供達の笑顔に癒されると思います。

2, 変革の時代とされる社会経済の動き {ポストコロナ社会の胎動}

- 私達を取巻く厳しい環境変化は、いかに楽観主義者と雖も憂鬱な未来しか想像できないほどの状況にある。
- とりわけ重要な事は、環境問題 {温暖化や水不足等} 等地球環境に膨大な負荷がかかっている現状を改善すること。これは目先の繁栄と引き換えに出来ない絶対価値の問題。
- 次に経済問題、これはグローバル化の中で他国との相対的な問題であり至上命題とは言えないが、戦略的な取り組みにより長期に亘って国民が豊かさを享受できるような取り組みが必要、また人々が安心して様々なチャレンジができるようセーフティネットを構築する必要がある。
- こうしたことよりも、危惧されることは、大都市圏一極集中の過程で、人々が暮らしの中で多年薫育してきた日本の善きエトス、人間社会の間隙を埋め人々の連帯の基ともなってきた価値観が失われつつある現状である。こうした価値観を再興し未来社会に紡いでいくことが日本にとってより重要と考える。{向村離都・田園回帰の契機}

(1) 新型コロナウイルス感染症のパンデミック拡大

① 感染症 {伝染病} に対する備えが不十分 {歴史の教訓を活かしたパラバラム}

- 明治以来、コレラ、腸チフス、疫痢赤痢等の伝染病が猖獗を極め、日清日露戦争を上回るほどの死者を出した教訓が生かされていない。(人流抑制 {人権とも関わるが社会防衛} と隔離 {病床確保} 及び適切な治療 {ワクチンや治療薬の開発} と体制整備 {防疫は死語。感染症対策よりも慢性疾患対策を優先、医療機関や保健所の体制も不十分})

⇒社会防衛というマインドを喪失 {人命優先} 保健所改革、医療資源改革⇒統廃合

⇒徹底した隔離政策等も取れない {国民に対する的確な情報提供と適切な指示} まま2年間に亘って、新型コロナウイルス対策が後手後手に回った。{弥縫策}

*デルタ株の第5波も終息しかけた矢先に、今度は、オミクロン型のパンデミック {第6波} が拡大中 {世界で4億人以上が感染}

⇒ワクチンは重症化予防 {無症状感染が拡大するしウイルスは進化}、リアルタイムの検査体制確立が急務 {検査も出来ず、治療薬も不足、自宅療養では限界}

⇒感染力はデルタ株よりも高いが重症化率は低い {弱毒性} とされているが個人差がある。

: エssenシャルワーカーや子供達、家庭、施設等への感染拡大が懸念

: 動物から動物、動物からヒト、ヒトからヒト、耐性を取得するために変異し進化するのがウイルスであり感染対策は常に特別な事態が発生することを予想。

*熊本県に発令されていた蔓延防止等重点措置は3月6日まで延長決定

⇒感染症は、人の移動で拡散することから、一番効果的な対策は移動抑制。移動抑制は経済圏や生活圏が拡大した今日、当然ながら経済活動は停滞。特に、観光、物流、消費、教育等全ての分野で影響が拡大。

: 検査体制を構築、病床確保、ワクチン接種、学校や介護施設等の保健体制を強化

⇒1995年制作の映画「アウトブレイク」ダスティン・ホフマンに感染症対策の基本を見る。
:当時県庁衛生部政策班長として熊本県保健学院で衛生法規の講義(伝染病予防法等)
:但し、映画の内容は、相当にラジカルです。

②ウイズコロナに向けて

⇒令和4年度以降も人流回復は期待できない。ならば、この時期にポストコロナ社会に向けた知恵を絞り、新たなビジネス展開の可能性を探ることが重要。
⇒コロナ以前の社会と比較して、この2年間で、何がどう変化したかを徹底して検証する必要がある。(諸外国では、コロナ以前から次世代に向けた戦略的な研究が始まっており、弥縫策に一喜一憂している状況ではない。)
⇒イスラエルの歴史学者ハラリは、コロナ禍からの回復過程では一部の国、業界、人物のみが富裕化し貧困層がより困窮する恐れがあり極めて重要な選択の10年と指摘。

(2) 全ての分野で驚くべき変革が世界規模で拡大(恵沢極まりあり)

①環境問題(地球の環境や資源は無敵大ではない)

- 地球温暖化、森林破壊、砂漠化、野生生物絶滅、気候変動、オゾン層破壊、酸性雨、塩害、地下水位の低下、廃プラ問題等産業革命以来集積された様々な課題は各地でアウトブレイク。
- それぞれの問題が経済や人々のライフスタイルと複雑に関係(複合汚染)して、解決を困難なものにしている。例えば、人口増加は、温暖化、森林破壊、砂漠化、飲料水の確保、食料問題等に直結している。(激増する水需要)
*水の惑星地球の地表面は75%が水。その水の97.5%が海水、2.5%の淡水の殆どが氷であり、人間が利用できる川や湖の淡水は、0.01%。しかも水資源は熱帯やモンスーン地帯などに偏在。また、日本など急峻な地形では降雨は海に流出。気候変動に関する政府間パネル(IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change)によれば、2025年には50億人が水不足(量質)に直面。
- 人々は、経済の安定や所得の拡大、生活水準の向上等成長路線を希求するが、経済成長の原動力(エネルギーや原材料等)は、自然資源の消費と環境問題の発生等と密接に繋がっている。(危機対応の選択肢は時間軸とともに限定)
- 地球環境に負荷をかけない生き方が地球規模でのコンセンサスとなるのは難しい。問題は、スウェーデン環境活動家グレタ・トゥンベリ等が危機感を強める気候変動等に代表される環境破壊は加速度的に進行しているという事実に対する情報提供が圧倒的に不足しているということ。(代償を払わされるのは未来世代)
*グレタは、大人達は子供達の未来を奪っている。大人達は黒白をつけられるものはないというが嘘。科学者に聞いてみて下さい。私は大人達を絶対に許さない。

②人口問題(人口減少は課題なのか。人口減少は衰退のバロメーターにはならない。)

- 国連による最新の世界人口の推計2019年版によれば、77億人そして、2030年の85億人(10%増)、さらに2050年には97億人(同26%)、2100年に109億人(42%)と予測。
- 人口増加に伴い、貧富の差の拡大、温暖化等環境悪化、化石燃料の枯渇、水と食料の確保、表土と森の喪失(砂漠化)、医療や教育の問題、感染症の拡大等問題が山積。
- 7千万年前に哺乳類出現、400万年前に猿人出現、10万年前に新人出現、BC2500年1億人、AD1年2億人、AD千年3億人、1650年5億人、1800年10億人、1900年20億人、1960年30億人、2011年70億人
- 我が国では、人口減少が問題とされるが、世界では爆発的な人口増加が問題
:現在の人口減少局面は、工業化による生産増加と人口増加の好循環が停止局面に入った事が要因
:人間の社会が人間を目的とする社会から人間を手段とする社会に変化(人口概念)
:国家の富と力は、国民の数と性格に起因(富国強兵、健民思想)

③経済問題(工業社会から知識社会の台頭・驚くべき格差社会の出現)

- {GAFAM{Google、Amazon、Facebook、Apple、Microsoft}や中国系のBATH: バイドウ

(Baidu)、アリババ (Alibaba) テンセント (Tencent)、ファーウェイ (Huawei) 等の巨大情報産業が世界中で業績を伸ばす。

⇒グローバリズムの必然ではあるが世界のビジネスルールが根本から変化し、コロナ禍の中で加速度的に業績を伸ばし続けている。

⇒交通網と IT の発達で世界のビジネスルールが根本から変化。{グローバリゼーションの猛威}

：検索エンジン、ネットショップ等で市場を独占し IT の覇者 {デジタル空間上のプラットフォーム}

：GAF4 社の時価総額 430 兆円 {国の GDP 相当} : 東証一部 2159 社の時価総 629 兆円

：世界の時価総額ベスト 50 {日本企業 43 位トヨタ}

⇒コンピュータ、携帯、情報機器、ロボット、エネルギー、自動運転車、無人自動配送システム等革新的技術による世界市場展開を目指す破壊的企業により気が付いたら海外から完全に水を開けられていた。日本は、先端技術分野で立ち遅れが目立つが全産業の基盤的な技術であり課題は大きい。

⇒GAF4 の強さの秘密を明かし、その危険性を警告した書籍『the four GAF4 四騎士が創り変えた世界』は日本だけで 15 万部のベストセラー

○ガラパコス現象 {日本では常識でも世界では非常識}

*環境問題や IT 教育等は、日本ではホットな政策課題、でも世界の先進国では、何十年も前からこの課題。このような問題をガラパコス現象と呼ぶ {孤立した環境で取り残される。}

○DX {デジタルトランスフォーメーション}

*デジタル技術を活用し企業や行政が組織や業務改善を図りビジネスモデルを改革

*DX は手段であり、活用目的を明確にしないまま進むと手段と目的が混交。何かやってみようという曖昧な目的ではなく、何をどのように改善し、そのために DX 技術を活用するかの検討が先。{DX は手段であり、目的ではない。目的と手段の混交状態}

○エネルギー革命 {世界の電力供給がドラスティックに変化中}

*世界は再生可能エネルギーに向けて、急激に技術革新が続くが、日本では東電の原発事故の教訓を活かせず、原発温存 {漸減}、火力依存型のエネルギー政策が主軸。

：福島では、汚染水の海洋放流、1号機の原子炉格納容器内部の汚染物質の除去の目処も立っていないが、人々の意識は過去の事故となりつつある。

*日本の原発事故の教訓を学んだのは諸外国の方で、現状でも風力や太陽光発電が、発電量とコスト面で原発を抜きつつある状況。

*日本人のエートス、既存の方針を変えきれない。客観性の無い思い込みでしがみつく。

*太陽光発電の原価は、1円~2円/kw {原発は 10円~15円}

*継続的なコスト低下は、風力がマイナス 70%、太陽光はマイナス 90%とされる。

*日本は電力コストが下がらないのでエネルギーコストがかかる産業は諸外国との競争力を喪失しかねない。{石油石炭市場崩壊の可能性}

*日本では、世界でいまのような技術革新が進んでいるのか、何が起きているのか知らない。知らない間に大きな変化が起こっている。このままでは変革に取り残されかねない。

(3) 環境変化を織り込み未来に備える {日本は世界一優秀な国ではなかったの}

①処方箋無き現状

○幕末の黒船襲来ともいわれる深刻な事態への対応が十分になされてこなかった。

平成以降、危機が予想されたにも関わらず、教育、研究、技術革新、市場展開等、全ての面で先進国と比較して日本では抜本的な対策の遅れが顕著}

⇒デジタル関連機器輸出 2010 年 {世界 3 位} ⇒2019 年 {世界 7 位}

⇒製造業 1 人当たり実質労働生産性 2001 年 {世界 11 位} ⇒2018 年 {世界 16 位}

⇒2015 年~2019 年の 5 年間の 1 人当たりの実質労働生産性上昇率 -0.3%は、OECD {経済協力開発機構} 加盟国中で 35 位 {37 国}

⇒1 人当り GDP は、1990 年 {6 位} ⇒2019 年 {21 位}、政府の負債 1000 兆円超

② 3つの悪循環が加速化（競争力のある成長産業育成に繋がっていない）

- ⇒ 基幹的な産業が衰退すれば、企業は海外で稼ぐしかないので、価格で競争力を維持するために円安が進む。企業の業績低迷では賃金上昇も望めず実質的には賃金は下がる。
- ⇒ 賃金が下がれば内需拡大は難しい。そうした中で金融緩和や財政出動しても企業の設備投資等には繋がらない（先行き不安から内部留保だけは増加）
- ⇒ 設備投資や未来に向けた研究開発等に資金や意欲が回らないと企業の競争力は低下するばかりで世界から取り残される。
- ⇒ 全ての面で、ここ数十年のつけが一挙に回ってきている状況で、間違いなく日本の危機と受け止めるべきとの指摘が多い。

③ 諸外国の取り組み（処方箋）

- ⇒ 例えば北欧（再配分重視）は、既に高齢化も見通し、高福祉高負担でも対応できる知的産業の育成に成功。
- ⇒ 新しい産業（製造業等のモノを作るのではなく、研究開発や人への投資（ライフスタイル重視）に積極的）が新たな雇用を創出し、活力ある企業や社会、余裕のある豊かな社会づくりを目指している。
- ⇒ 人々を豊かにするために雇用を大切にする。再配分を可能とするために何でメシを食うか。稼ぐかの新たな仕組みづくりを大胆に回し始めている。
 - * 人間がやる気を出す時は、「自分がやっていることの意味が分かっているとき」。
 - * ポルボは、ノンテラー主義（ラインを廃止し1人で最後まで車を組み立てる）自分達で考えて目標を立てて実行する方が生産性が高いと判断。
 - * グッドバイヒュッグ、ハローシス（世界一幸せな国フィンランドで最近流行っている言葉）
 - ：ヒュッグ（HYGGE）：居心地の良い空間、楽しい時間、ウエルビーングな状態
 - ：シス（SISU）：気概、根性、前進する勇氣、厳しい環境に耐える力、生き抜く力

（教育に関する考え方）

- * 知識社会では、工業社会のように標準化された反復訓練によって身に付ける能力や標準化された知識を強制的に詰め込まれて獲得できる能力は必要とされない。問題の所在を認知するとともに、認知した問題を創造的に解決していく能力、学び続けることを動機づける能力が必要となる。
 - （研究開発に必要な創造性を育む教育という面から生涯学習も含めて再構築）
- * 型にはめる盆栽型教育では身に付かない能力から栽培型教育への転換。
 - ：日本社会では、子供が医者や弁護士になりたいとか、官僚になりたいと言えば、手放して喜びますが、世界では、多くの若者が、マイクロソフトのビルゲイツ、バージンインダストリーのリチャードブランソン、デルコンピュータのマイケルデル等の下で働きたいと思っている。
 - ：もっと言えば、GMの社長トーマスエジソン、フォードのヘンリーフォード、CNNのTEDタナー、アップルのスティーブジョブス達は大学を出ていないがそれでも彼らは自分でビジネスを興し成功した。{可能性は無量大}
- * 人間として生き抜く力、想像性や芸術も含めた教育、歴史や地理教育等も重要
 - ：小中高校大学と長い時間をかけて学んだ英語、微積分や三角関数、科学や物理等が役に立ったのか。結局のところ必要なのは学歴ではなく、生き抜く力、想像力、夢と強い意志、短期間で必要な事を集中して学ぶ能力等の育成等ではなかったのか。

④ トピック：熊本に世界の半導体製造大手 TSMC（台湾積体電路製造）が進出

- ⇒ 世界的な半導体不足、政府も数千億規模の補助金で国策として誘致（22年に新工場建設、24年に稼働予定：時間がかかる調査研究型先端技術産業育成か工場誘致か）
- ⇒ 半導体はクルマ、電子機器などの生産に不可欠な「産業のコメ」、人工頭脳（AI）などの技術の飛躍的な発展とインターネット等社会のデジタル化の進展で、半導体の重要性高まり世界で需要が急拡大。
- ⇒ 他方、米中対立の激化で先端技術の覇権争いが激しさを増し、半導体を筆頭に、技術自体はもちろん、原材料の管理強化が進められサプライチェーン（供給網）の見直しが急務
- ⇒ 生産するのは、回路線幅が22ナノメートル（ナノは10億分の1）と28ナノメートルの「ミドルレンジ」と呼ばれる半導体。回路の線幅は小さいほど半導体の性能が高くなり、現在の最先端は5ナノメートルレベルの半導体で、これを量産できるのはTSMCと韓国の

サムスン電子。「ミドルレンジ」は最先端でないが、自動車や産業機械、家電製品向けなど用途は広い。

⇒日本の半導体産業は1980年代こそ世界シェア首位を占めたが、現在ではシェアは10%程度まで低下。経済産業省主導で国内3社を統合し、公的資金も投じた「エルピーダメモリ」(現マイクロンメモリジャパン)が2012年に経営破綻。

⇒巨額の投資に耐えきれなくなった半導体メーカーは設計・開発と生産を切り離し、生産はTSMCのような受託製造会社に委託。最先端の5ナノメートル半導体はもちろん今回TSMCが生産する予定の20ナノ台の半導体を自前で量産出来ないのが現状とされる。

(4) 人間関係希薄化病? {21世紀最大の疾病が拡大}

①昭和までは維持していた日本の絆社会が大きく変化。

※欧州では1973年の石油ショック以降、都市集中現象は減退{田園回帰の潮流} 北欧では、地域コミュニティが機能する農村地帯こそ可能性のある魅力的な地域として、研究機関やデザイン事務所等の立地を促進。

②懐かしき日本 {豊秋万古の持続型農業も農家・農村有っての穰りは何処へ}

※地域コミュニティの絆 {隣近所に他人無し、もやいの精神、お互い様、ありがとう(山川草木、生きとし生けるもの全てに感謝)、もったいない {簡易、善良、素朴}、頂きます、どうぞお先にという心、よっていかんね。話していかんね。} が消滅危機。

⇒人と人、人と自然が共生する田舎の暮らし、家族だけでなくコミュニティ全ての人が家族のように助け合っていた暮らし。慶事には心から喜びあい。悲しい時や苦しい時には助け合ってきた暮らしが変化。{祭りや盆正月にも帰省しない。}

⇒勝ち負けや儲け等という価値観 {金色夜叉} よりも、貧しくはあっても精神は健全で、お互いが協力し、助けあって生きることを美德とした時代 {もやい、結等}

*決して豊かではないが穏やかに楽しく生活する。およそ人を騙して何かを目論もうとする等という雰囲気ではないものがあつた。

○高度経済成長期頃を境に、家族、地域、学校、職場、社会において、当たり前とされてきたことが徐々に失われ、人間の絆が希薄化し、共同社会の構成員としての認識も崩壊しはじめた。{人間関係希薄化}

⇒自分がコミュニティそして自治体、国家の構成員であるという共生社会や参加意識、共生社会の不幸や困難に傍観者ではなく社会の構成員として積極的に参加 {責務・行動・負担} する意識も希薄化

*パブリックベネフィット {public benefit=公共の利益}

*シビックデューティ {civic duty=市民の責任、国民の義務}

*メンバーズレスポンスビリティ {members responsibility=集団の一員の責務}

⇒農林漁村の変貌 {昭和30年代は国民の80%が居住}

*経済成長とともに農業と他産業の収入の格差拡大

*食料自給率は輸入の増大で大幅に低下し弱体化

*過疎、高齢化、担い手不足、農業施設の維持困難、農家人口減少

*ライフスタイルの変化や化学肥料の増加、化学薬品増加、水質等の悪化、

⇒巷間、何時でも、何処でも、誰でも、全ての人がというレトリックが氾濫してるが、そうした言葉と裏腹に、お互いの関係は希薄化の一途。

*墓参り {盆暮れ、命日、彼岸} が日常的⇒墓参無しから永代供養、墓じまいに。

*都市化、核家族化から葬祭の経験無し世代が増加。

*田舎の家は断捨離 {家族の思い出までも廃棄} の危機 {空き家は益々増加}

*地域の会合や作業等の実施困難⇒無参加、無関心・無関与 {新三無主義}

○人間関係希薄病は、大都市圏においては、さらに深刻な課題

⇒コロナ禍の中で、家庭内でもストレス蓄積 {10代行方不明者激増12000人/年}

*突然消える。保護者も心当たりが分からない。

*SNSの存在も解決を困難としている。

- ⇒職場や学校もそこだけの関係、詮索や付き合い強要は即ハラスメントとなりかねない。
- ⇒学校等でも二宮尊徳の銅像撤去 {ながらスマホ、児童虐待に繋がる}
 - *江戸時代の篤農家 {積小為大・心田を耕す・たらいの水等の格言}
 - *勤勉、儉約の尊徳も驚きを禁じ得ないと思うがついにそこまで来たかの感
- ⇒大都市圏は人口過密の中での人的過疎化進行
- ⇒大地震や津波などの自然災害の発生は都市圏では不可避 {大きいリスク内在}、それでも首都圏人口の比率は先進国で東京が突出 {最近転入増加が頭打ち当然}

(5) 課題は時間と共に増幅 {適切な処方箋と実行}

①失われた 30 年 {バブル崩壊後~}

- 経済の低迷、財政赤字の拡大、人口減少、少子高齢化、気候変動、自然災害多発、福島の原因問題、デジタル化、格差の拡大、安全保障問題の顕在化 {尖閣、竹島、中国、北朝鮮等}、世界的な紛争激化 {中近東、ウクライナ、台湾、香港、ウイグル等}
- 総選挙の結果等からすると投票率は戦後 3 番目に低い結果 {新型コロナウイルス感染症パンデミックの中} に終わり、特に未来社会を担う若者層の低投票率が懸念 {内外共に負担を伴う困難な課題への判断が問われる中で本当に無関心では済まされない。}
- 主権者としての意識を育てる教育 {小中高までの一貫した仕組み} の立直しが急務

②危惧される人間関係希薄病の蔓延

- 日本の良き伝統、文化、ライフスタイル等失われつつあるエートスの再興 {現代人が顧みることがなくなった簡易善良素朴のような大切なファクトを残していく}
 - *情報化の進展で希薄化が加速度的に進行
- お金を超えた価値観の再興 {人間関係 human Relations 復活 (仏: Renaissance)}
復権がコンセプト⇒HRR {ヒューマン・リレーション・ルネサンス}
 - *暖かな人間関係の復権無くしては、2 千年の間紡いできた日本人の善きもの全てを失うという指摘は杞憂ではない。
- その鍵を握るのは地方、過疎地域の農山村のライフスタイルそのもの⇒大都市圏には復興しようにも最初からエートスがない。{渡辺京二著の逝きし世の面影にはあったものが}

(6) 処方箋その 1 : 地方は可能性の宝庫 {人々が幸せを感じる参加型共生社会}

- 山川は万物生々の本、蒼生悠々業、山川は天下の下なり {熊沢蕃山}
- 私達地方は多くの国民の揺籃の地であり、四季折々の自然と向き合うことができる場所。
- 私達の心にインプットされたエートスが、地方に残されたモノリスに共鳴する。
- そこからは、人と人のつながり {人間関係}、国土や環境を守ってきた人々の思いが伝わってくる。人が住むにふさわしい地域、人間の絆の再生。
- 地方が衰退すれば、都市圏も衰退、地方無くして都市圏の繁栄無し。なにより暖かい人間関係の復興には、田園回帰そして向村離都の流れを回復することが重要。

3, 向村離都・田園回帰の奨め {幸せが住む虹色の湖=本当の幸せは足元}

(1) 世の中の動きへの対応 {絶望の危機は希望の未来への道筋を内在}

①人間関係希薄化の流れを止める {共生社会の再構築}

- 人間社会の価値体系の最上位は人間の命 {絶対価値}。人間の諸活動の原点は共生 {人と人・人と自然等との共存共栄} そして、共生社会は、人々の参加意識を基本とする社会。
- お互いに声を掛け合える顔の見える地域コミュニティを再建 {隣近所に他人無し}
 - 山や海を生かした地域づくりと海山交流の促進
 - *臨海学校、林間学級、キャンプ、集団生活、生き抜く力の育成、地域の伝統文化接触
 - *かつては自由にできていた自然体験も現在は経験することが難しい
 - 移住定住の促進 {訪れる人を大切にする。洗練された田舎づくりに客人からの智慧を活用}
 - 交流人口の拡大に注力 {住所は複数、モビリティの時代・移住促進・別荘・別宅・離れ}
 - 地域が暮らし続けるための三要素 {買物、病院、金融機関} に支え合いの新方式を工夫
 - 地域の基幹産業を活かし新たな雇用の創出 {地域づくりは規模を問わず}
 - *企業誘致競争 {外国企業から地場企業} より創業支援・企業化支援を重視。

- * なによりも地場企業を育てる。地場企業の活動を支援する。{起業のプラットフォーム}
- * 大都市圏の企業に就職するより地元で起業・就業。{キャッシュフロー・クワドランド、E, SE, B0, I}
- 地域の人々、保護者が子供達に地域に暮らす素晴らしさを伝える努力 {自信を復活}。
 - * 地域の残る人材、後継者、老親同居者、老親介護者等に特別の支援政策を検討 {社会貢献}
 - * 地域の祭り、伝統、文化の継承を振興 {子供達にノスタルジックな体験}
 - * 地方の自然、景観、ライフスタイル、環境⇒癒しの空間を整備
 - * 人間らしい生活、人として幸せな暮らしのモデルづくり {自分達の哲学をもつ}
 - * 自然に働きかけて、環境に負荷をかけず、生活に必要な有用物を創り出すライフスタイル {趣味や娯楽等オフを楽しむ、テレワークで出来るライフスタイル体験}
- 次代では人口増減や人口の多寡は、幸せの尺度ではなくなる。人口が減少しても、そこに暮らす人々が幸せを感じることでできる地域づくりが重要。{トリートメントできる場所}

(2) 時代が求める癒しの空間づくり {市場社会からほどほどの距離感}

① 癒しの空間整備 {生きていることが喜び}

- ⇒ 都市圏：人口集中・経済繁栄 vs 地方圏：人口減少・経済低迷という図式から、地方圏の豊かさを羨望するトレンドに変えていく。{積極的な情報発信}
 - * オリンピックのメダル数、1人当たりの国民所得、GDPで世界何位とか国威発揚とか経済成長とかではなく、国威発揚や稼ぎ高等を超えた異なる価値観の創造

② 地方の豊かさのリバイバル {自分達のライフスタイルと誇りの再生}

- ⇒ 地方圏の自然、景観、そこそこの豊かさと穏やかなライフスタイルが都市圏の人々の心を癒す魅力を創生 {景気が良くなっても幸せは戻ってこない。}
 - * 低密度居住地域⇒過疎と言う概念がおかしい。広大な空間を有する自然豊かな地域。
 - * 農林水産業で自然と共生しながら生きてきた様々な資源 {空気、水、食料、エネルギー、文化、伝統等} に溢れる地域
 - * 質実剛健で簡易善良素朴な地域特性を活かしたライフスタイルと経済だけでない誇りの磨き上げ。

③ 豊かな自然の中で心のトリートメント {都市圏との交流の仕組み}

- ⇒ 今後も移住定住の流れ、都市と農村との交流、田舎体験が加速する。
 - * 観光もモノからコト {体験} へ関心が移り始めている。
 - * 昔から旅の始まりは巡礼、人は社会で地位や名誉を遂げても癒されない。{釣りがバカ日誌の鈴木建設の社長のすうさんと浜ちゃんの関係：お金では買えないものがある。}
 - ：都市生活に疲れた人々に豊かで穏やかな時の流れの中で心身のトリートメントを提供
 - ：田舎に行って滞在して良かった。1年中で夏は上天草で、秋は阿蘇で、冬は熊本で、春は人吉で過ごす。{四季追い人のライフスタイル}
- ⇒ 大和は、国のまほろば、たたなづく青垣、山ごもれる大和しうるおし {古事記のヤマトタケルの歌}

④ 時代のトレンド、癒しの空間づくり {well-being}

- * 自分たちの地域に誇りを持って暮らし続ける誇り {伝統や文化の継承}
- * 経済的な豊かさでは測れない、お金では買えない価値観を創造し発信
- * 新しい価値観を創り出す。{ビジネスにつながる} ⇒可能性は無量大

4, 人材とは。{私の学んだこと}

- ~~~職場、御家庭、友人等の中で同じような場面に遭遇された際に参考になるかも~~~
- {為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり「鷹山・善山」}
- {仕事師1番を目指した日々。師匠の能力を超えたいと常に努力。少し頑張りすぎました。}}

(1) 学問 {読書} の契機 {答えは全て図書館の中にある}

- {図書館は本の倉庫ではありません。人間の長い経験と知恵のデータベース}
- ⇒ ニューヨーク公共図書館 {映画エクスリプレス「書票」} は一度鑑賞をお勧め。
- ※ 私のコレクション {小嶋ライブラリィ} のモットーは、子供達に読んでもらいたい書籍を

残すこと。私が感銘を受けた本を将来貴方達にも読んでもらいたいという思いで収集
※未来世代にとって大切なことは、お金や財産ではなく、学歴や地位ではなく、人間としての魅力そして智力（生き抜く力）を養うこと。でも人間としての魅力は己一代の努力精進だけでは間に合わない。そのために頼りになる書籍がある。

●私の成長を助けてくれた書籍 {登場人物の智慧と作家の思索の深さ}

【カエサル著】{ガリア戦記} {内乱記}

☆来た、見た、勝った {ウェーニー・ウィーディー・ウィーキー}、BC47のポントス王との戦いで勝利を友人に送ったラテン語の手紙 {古今東西の7字名文}

【塩野七生著】{ローマ人の物語} {ギリシャ人の物語} {十字軍物語} {海の都の物語}

☆大国の興亡の歴史を丹念な資料収集により独自の視点から描いた壮大な歴史大作
☆歴史とは、現在と過去の果てしない対話。過去の歴史が保存されるのは未来世代のため {英国歴史家カー}
☆歴史を知らない世代。関心がない世代は、教訓を学ばないのだから、必然再び歴史の蹉跎を繰り返す。良いことも悪しきことも糾える

【吉川英治著】{新平家物語} {私本太平記} {宮本武蔵} {三国志}

☆人間とは何か。盛者必衰の理とは何か。いかにして栄え滅んだのか。勝者も勝者ならず敗者もまた敗者ならない歴史 {通史} を流麗な文章で書き表した鎌骨の大作

【吉村昭著】{海の史劇} {関東大震災} {三陸海岸大津波}

☆東北大震災は未曾有の災害と言われるが、その規模を凌駕する地震と津波を詳細に記録 {何故人々は歴史の教訓を学ばなかったのか。首都直下型、南海トラフ地震に活用}

【司馬遼太郎著】{項羽と劉邦} {この国のかたち} {坂の上の雲} {跳ぶが如く}

☆大阪市の記念館の圧倒的書籍群に作者のウイルを強烈に感じる。
☆日本人、日本社会を透徹した観察眼で探求した名著

【児島襄著】{満州帝国} {日中戦争} {日露戦争} {太平洋戦争} {東京裁判}

☆戦史作家、膨大な基礎調査に基づく叙事詩を見事に完結。
:小嶋ライブラリには、私の選んだ珠玉の著作が子供達に再読、三読される日を待っている。

※書籍から得られる歴史の教訓や作家の思索の深さは、刹那的なテレビ、漫画、ネット、映画等からは得難いもの。{図書館は智慧の宝庫}

※歴史上の人物に共通するものの一つに、学業成績が優秀かどうかではなく、常に問題意識を持ち、想像性豊かで、洞察力と決断力に優れ、挑戦意欲と未知なるものを探求してやまない向上心、つまり生き抜く力を持っている。そして何より、人生意気に感ずと言うオーラが、人々に感動を与え続ける。バーチャルな世界ですが、小嶋文庫 {自称} では、自らには経験できない歴史の舞台を目の当たりにしながら楽しい思索の時を過ごせる。

(2) テミストクレスへの賛辞 {ギリシャの歴史家ツキジデス}

- ※リーダーとはいかにという点について、塩野七海さんの著作は、まさに、珠玉の教え。
- ※ギリシャ人の物語では、いかにして民主制が誕生し、機能し、衰退したかを学ぶ事が出来る。レジュメの資料に添付しておりますが、リーダーの資質は、アテネ海軍のトップ、サラミスの海戦の英雄テミストクレスへの賛辞に尽きる。
- ※私のリーダー論を聞かれるまでもなく、2300年前の歴史家ツキジデスの分析は、今なお2500年前のテミストクレスの驚嘆すべき能力と智力を余すところなく伝えている。
- ※ローマ人の物語は、何世紀に亘るローマの勃興と、繁栄、衰退の歴史、そして、その時々々のリーダー {皇帝等} の苦悩と葛藤が15巻に亘って精緻に記述。{現代よりもっと困難な時代}
- ※現在の組織論やリーダーシップ論には、リーダーは、最終的な決断を担い、後は、部下に任

せるのが役目、部下にやらせてみて、褒めて育てるとか出てくるが、大企業であれば別ですが、現場はそうはいかないものです。{指揮官は、戦場には真っ先に降り、最後に離れるもの}

(3) 草莽崛起の気概 {昌平坂学問所や藩校ではなく先覚者が開いた私塾から人材輩出}

※くまもとテクノ大学田原塾 {現代版松下村塾：蒔かれた種が 30 数年、企業人教育のモデル}
⇒田原塾 30 周年への投稿参照

※田原塾のコンセプトは、いかにして出来上がったのか。{第一法規：日本の指導理念参照}
☆時習館 {熊本藩：二の丸跡、総教、塾頭、塾生の主体性、自主性を尊重、士分以外も入塾}
☆日田咸宜園 {日田市：広瀬淡窓：門弟 3 千人、漢詩・桂林荘雜詠書生に示す等参照}
☆長崎鳴滝塾 {長崎市：ドイツ人フォンシーボルト開設、蘭学医学}
☆萩松下村塾 {萩市：吉田松陰：草莽崛起論他、24 時間孟士、明治維新人材輩出}
☆大阪滴々齋塾 {大阪府堂島：緒方洪庵：蘭学}

※幕末の鎖国か開国、尊王攘夷、佐幕と世論が沸騰する中、塾生達は、教材も殆どない中で必死に勉強。{時勢への悲歌慷慨、学問への情熱と使命感、草莽崛起の気概が無ければ出来ない先駆者たちの努力} {明治維新は、江戸ではなく地方から起こった。}
☆現代人のように学歴や資格を取るために大学に進学するという漠然とした思いではなく、
文字通り学ならずんば死すとも不帰との決意で入塾し徹底した努力を重ねた。}

5, まとめ {保護者として子供達に寄り添い、伝え、皆んなで力を合せて、共に頑張りましょう}

○まずは、住み続けている住民等にとって癒されると感じる空間こそ、これからの地域づくりの目標。{ワンダーランドに観光誘客するのは限界}
* 草萐の海、阿蘇の草原等は説明の必要のない宝。

○自分達が暮らしている地域に誇りと自信を持って、誠実に仕事に励み、周りの人々と力を合せて生業を磨き、ライフスタイルを創り上げれば、その先に、自分達が目指す未来社会がある。

○皆さんの周りに、お互いを心からリスペクトし、共生できる社会づくりを目指し、子供達には、感謝、友情、誠実、平等心、絆、ごめんなさいという素直な心を育む。{人生の宝物}

○築城 10 年、落城 1 日 {模範となる官僚は自省すべし}

※近年の行政 {特に国} を見ると本当に慚愧に堪えない。 恥ずかしい限り。

※国民全体の奉仕者であるにも関わらず、公文書の改竄、真黒けの情報公開、忖度の横行、利害関係者との癒着等目に余る事態。

※行政の私物化劣化、官僚は墮落したと言われても仕方がない。 国民の不信や疑惑の目。行政の公正、公平、公明、透明性、矜持はどこに行ったのか。

※学歴や仕事の成績より、挨拶を励行し、マナーが良く、言葉使いが丁寧で、情熱があり、誠実に溢れているような人物が待望される。

○保護者の皆さんが、残していきたい。伝えたいという思いは、そのまま次の世代に伝わっています。(言わず語らず)

○雑駁な、まとまりのない話しになりましたが、説明不足がありましたら後でレジュメをご覧頂きたいと思います。

○最後に、御清聴に感謝申し上げますと共に、皆様の御活躍、御健勝を心から祈念申し上げます。

【私が大切にしている言葉を幾つか御紹介します】

{子ども} {ドロシー・ロー・ノルト：アメリカの家庭教育学者}

批判ばかりされた 子どもは
非難することを おぼえる
殴られて大きくなった 子どもは
力にたよることを おぼえる
笑いものにされた 子どもは
ものを言わずにいることを おぼえる
皮肉にさらされた 子どもは
鈍い良心の もちぬしになる
しかし 激励をうけた 子どもは
自信を おぼえる
寛容にであった 子どもは
忍耐を おぼえる
賞賛をうけた 子どもは
評価することを おぼえる
フェアプレイを経験した 子どもは
公正を おぼえる
友情を知る 子どもは
親切を おぼえる
安心を経験した 子どもは
信頼を おぼえる
可愛がられ 抱きしめられた 子どもは
世界中の愛情を 感じ取ることを おぼえる

{人生に必要なことは全て幼稚園で学んだ} の一節

{ロバート・フルガム：アメリカテキサス州生まれの作家}

ものみなすべて分けあおう
正々堂々プレーしよう
人を叩くな
散らかしたら片づけて
元の場所に戻しておこう
ひとのものには手を出すな
誰かを傷つけたら
ごめんなさいといおう
表に出たら交通に気をつけよう
手をしっかりとつないでいこう

{私の子供達の中学校部活動で学んだ言葉}

- ①基本技術をしっかりと覚えましょう
- ②正しい集団活動が出来るようになるろう
- ③他のチームの良いところを学びましょう
- ④辛い事も体験し、頑張ることを学び乗り越えましょう
- ⑤友達を多くつくりましょう
- ⑥自分の良い点、悪い点を確認し、目標を高くチャレンジしましょう
- ⑦自分の健康管理は自分でしましょう
- ⑧部活動を支えてくれる親や家族に感謝しましょう
- ⑨勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けはありません
- ⑩勝利の秘訣を問う勿れです。

{メアリー・ピックフォード：カナダ出身の女優}

間違いをしても やり直す機会は必ずあります 何故なら
私達が失敗と呼ぶものは 転んだことでは無く 転んだまま
起き上がらないことなのですから

過去は変えることは出来ない
でも未来は貴方の手の中にあるの

{スウェーデンの社会科の教科書 {貴方自身の社会} より

- 1, 家族意識とは、誰もが誰に対して、不幸にならないことを願い合い、幸福になることを願っているという確信です。
- 2, 社会の基盤としての家族関係
私たちは、学校、職場、余暇活動等で、様々なグループに属しています。
しかし、私たちにとって最も大切なグループは、それがどんなタイプであるかに関わりなく家族です。人々は、家族は、社会全体がその上に成り立っている基礎であるとやや重々しく表現します。
家族の中であって、私達は、親近感、思いやり、連帯感、相互理解を感じます。一方、そこには要求されるものもあります。お互いへの配慮や敬意、そして家族の一員として家庭内の仕事を分担するなどです。
家族にあっては、私達は、ありのままでいながら、受け入れられ、好かれていると感じる事が出来ます。
たとえ、馬鹿な事を言ったりしてもです。そういうことは、その他のグループでは決してありません。

私注：詳しい事は存じませんが国家は家族のように組織されるという趣旨でしょうか。

Qyo Vadis from the sea in the states of Chaos

{混沌の荒海を乗り切るため、我ら此処で何を学び、何を為すのか}

{田原塾は知事の熱い思いからスタート}

熊本テクノポリスを主導された細川知事は、熊本の将来の発展如何は、世界に通用するエクセレンスな企業づくり、そして、それを支える企業人育成にかかっているとされ、幕末維新の原動力となった全国諸藩の藩校(熊本は時習館)や萩の松下村塾、長崎の鳴滝塾、日田の咸宜園、大阪の適々斎塾等私塾も参考に、少数精鋭の企業人教育(交流)の場づくりの検討が始まりました。

当時、私は、企画開発部企画課テクノポリス推進室参事として着任早々でしたが、前年に、民間企業のビジネスイノベーション等の研究に産業能率大学総合研究所に派遣されていたこともあって企画担当者として白羽の矢が立ったと聞いています。

この間の経緯については、田原塾20周年記念式典の際に詳しく寄稿していることから重複を避けますが、大学教授、民間企業の社長等4人のアドバイザーの厳しい指摘や暖かい助言を頂きながら僭越にも県職員が企業人教育の企画に携わることとなりました。

開設時期は、最初から1年後の平成元年4月と決まっていたことから、募集期間も考慮し、約半年間で、塾の理念、名称、運営体制(総教【初代は電通総研の天谷社長が就任】や塾長等自主自学の体制)、講師陣、講座(全人格的な教育を目指し著名な住職、歌人、狂言師等も含め年間20回の講座、海外研修込み)、塾生10名前後、入塾に当たっては面接試験の実施【第1回の試験官は坂本光司先生】、入塾料50万等の基本構想案をなんとか取りまとめることが出来ました。

{田原塾の名称}

9月に細川知事に最終的な構想案を説明し、塾の名称も知事からテクニサーチパークの所在地に因み(田原塾)と命名して頂きましたが、これが、その後30年続くこととなる田原塾の淵源です。

当時、熊本経済界を代表する若手社長さん達を1期生として想定していましたので、面接試験を実施した上で受講料50万、多忙な中に1年間20回の講座そして最後に卒論等というコンセプトに果たして募集者が来るのか随分心配しましたが、幸いに、企画アドバイザーを務めて頂いた同仁化学の上野社長とサンカラーの橋本社長が率先して参加頂き、勧誘にも助言等を頂いたことで予定を上回る17名の一期生が誕生しました。

開塾後も企画担当者として、聡明で気鋭の経営者の皆さんに毎月2回の講座をいかに満足して頂けるか、各講座の講師との詳細な打ち合わせを実施するなど、真剣勝負の1年が瞬間に過ぎましたが、1期生の皆様の感想は、2期生募集のパンフに記載されているとおり概ね高い評価を頂き安堵したところです。

{企画担当者の葛藤}

振り返れば、現代の松下村塾を創るという途方もないテーマを与えられ呻吟した日々。企業経営者の皆さんに、今更、企業経営の教養講座などを実施しても2~3回しかもたない。多忙な皆様に参加して良かったと言える塾にするためには、その理念と具体的な講義内容をどうしたら良いのかという悩みの中で、当時、第一法規が出版した(日本の指導理念)を購入し読み漁った記憶があります。また、理想とされる組織の指導者像を描くため歴史家が残した偉人の生き様を辿ったことも30年前の懐かしい思い出です。

例えば、組織の指導者の理想像の一つとして2300年前の歴史家ツキジデスが残したアテネの「テミストクレス」への讃辞からは、自らの頭で考え抜く力、深い洞察力と智力が必要なことを学びました。

その讃に曰く、【テミストクレスの存在そのものが感嘆しないではいられないくらいの驚異そのもの。中でも特に必要となるや発揮される類まれなる信念の強さ。これまた機に応じて提示された天才的な獨創性。彼の知力たるや機敏でいて、しなやかで、学問で得た知識からも、経験で得た知識からも自由であり、その洞察力は鋭く、かつ深く、一見しただけで、状況を完璧に把握し、狡猾と言って良いやり方でも迷わずに実行に移すことで、今現在のみならず、将来的にも有効な解決策を講じる事ができた。

彼が自ら関与していた場合は、実行に移されるあらゆる行為の意味するところを正確に知っていたし、それを他の人々にも明快に解き明かす能力も持っていた。彼自身で関与していなかった場合でも、彼の下す状況の判断と、それへの対応策が誤ったことは無かった。

とりわけ優れていたのは、他の人が想像もしない前に既に将来起こりうる事態までも見通す力まで持っていた。テミストクレスとは、強靱な天賦の才に恵まれた傑出した人物であったと言うしかなく、集中力や瞬発力では他に類を見ない力を生涯を通じて発揮し、障害に突き当たった時には瞬時に解決策を見出す才能だけでも、まことに驚異的とするしかない人物であった。】と評されています。

今から2500年前のアテネ人、テミストクレスは、政治家であり軍人で、世界3大海戦のひとつサラミスの海戦でペルシャ海軍を完膚無きまで撃破したことで有名ですが、ツキジデスの讃辞は、混沌の時代を生き抜いたテミストクレスの能力と智力を余すところなく伝えるとともに、現代社会に生きる我々、とりわけ組織のトップが備えるべき能力についても示唆に富んでいると思います。

いずれにしても、平成元年に呱呱の声を上げた田原塾が、主催される公益財団法人くまもと産業支援財団のご尽力により、30期、30年に亘って続いただけでも驚異的な事だと思いますし、460名の塾生の皆さんがそれぞれの企業でご活躍されれば、企業はもとより熊本の地域社会の未来に大きな果実を齎して頂くものと確信しております。

平成31年1月

創設時企画担当者 小嶋一誠(上天草市副市長)

{冒頭のみステリアスなロゴは、田原塾1期生募集用パンフのタイトル}

このロゴは、聖ペテロの運命を決めた言葉のリバースです。時は西暦1世紀ローマ帝国皇帝ネロの時代、キリスト教徒への迫害は日毎に激しくなり、虐殺を恐れた信者は国外に逃れていた。ローマをキリスト教に改宗させる使命を帯びた使徒ペテロは、最後までローマに留まるつもりであったが、周囲の人々の強い奨めでローマを離れることに同意しアツピア街道を歩いていた時、夜明けの光の中にキリストの姿を見る。ペテロは驚きひざまずき尋ねた。クオバティス・ドミネ(主よ何処にか行き給う)と。キリストは言う。(汝ペテロ、我が民を見捨てなば、我ローマに行きて、今一度十字架にかからん。)ペテロは驚きのあまり気を失ったが、やがて起き上がると迷うことなく元来た道をローマに引き返し、捕らえられ十字架にかけられ殉教した。ペテロは死んだが、それはキリスト教発展の契機となり、彼はカトリック教会最初のローマ法王となったとされています。(ヨハネ福音書等から抜粋)

それから2千年近くが過ぎた今もなお社会経済は混迷の海を漂っています。企業の盛衰を担う経営者は、日々羅針盤の無い航海の中で思索と葛藤を重ねている中、田原塾は、時々刻々と変化する環境への対応力を自ら学び取る意思をもった求道の塾生に開かれた産官学共同修行(交流)の場であるという創設時の熱い思いが込められていました。